

2017年度 Q1 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2017年8月3日(木) 16時00分～16時30分

出席者：松島 CFO

1. 2017年度 Q1 実績

Q: Q1の着地は想定より良かったか？

A: 想定より若干良かった印象。

Q: 売総率改善の幅が大きい印象。全てのモデルで改善したとのことだが、改善要因を教えてください。

A: 不採算を除いた売総率は22.3%（16年度Q1）→23.5%（17年度Q1）で前年同期比1.2pts改善した。金額だと10億円程度の改善。全てのモデルで改善している。サービスは主に一部の事業会社のSE稼働率が改善、開発は流通・エンタープライズ事業の個別開発案件などの採算が改善。製品は流通・エンタープライズ事業でリース会計の日本基準とIFRSの差によるインパクトなどがあり改善。

Q: 不採算案件の内訳は？

A: 前年度は7件で▲3億円、今年は5件で▲7億円発生した。

通期計画では▲18億円を見込んでおり、今のところ想定範囲内。

セグメント別の実績を見ると判ると思うので、ご説明しておく、一部の不採算案件は情報通信分野で発生しているが、クリティカルなものではない。

Q: 期初の段階で、Q1に▲7億円の不採算が見えていたということか？

A: ▲7億円の不採算案件が発生するとみていたわけではない。不採算案件が、ある程度発生することをリスクとして見ていた。

Q: Q1に発生した不採算案件は、全て今期中に売り上がるという認識で良いか？

A: 全て今期中の売上を目指している。

Q: 営業利益が前年同期比+7億円となった要因を整理すると？

A: 為替（評価損）がなくなったことなどによる+3億円は一過性要因だが、不採算の影響や販管費増加を吸収し本業部分でも増益している。今後については、この流れが続くよう努力していきたい。受注残高が積み上がっていることがQ2以降に向けての好材料とみている。6月末の残高のうち、1/3がQ2、1/3が下期に計上される見通し。売上については比較的強いモメンタムが見込めるだろう。

Q: 金融収益の主な内容は？

A: 当社の関連会社の伊藤忠テクノロジーベンチャーズが運用し、当社も一部出資しているファンドにおいて評価益が発生している。

Q:販管費は、今期は▲30 億円増加の前提で、うち▲10 億円が減価償却費の増加だったと思うが、Q1 はほぼ増えていない。前提が変わったのか？

A:前提は変わっていない。今後発生すると見ている。Q1 の販管費の出方は概ね想定線。

Q:単体業績が日本基準なのは理解しているが、原価以下が連結業績の方向感と違うため、その差異について説明してほしい。

A:営業利益では、単体と連結で前年同期比の差額が 17 億円（単体△10 億、連結+7 億）ある。それについて説明すると、1 つ目が一部の国内事業会社の採算性改善や、2017 年 4 月に事業会社の CTC ライフサイエンスを CTC に統合した影響もあり、+6-7 億のインパクト。

2 つ目が、リース会計の日本基準と IFRS の差による+3-4 億のインパクト（日本基準では売上一括計上、利益が繰延であるのに対し、IFRS では利益も一括計上）。

3 つ目が IFRS 表示組替の影響。表示組替は、日本基準の「営業外損益」が IFRS だと「その他の収益及び費用」に組替えられることによるインパクトで、金額にして+3 億。この内訳は、為替評価損の減少が+2.4 億、減損損失の減少が+0.6 億。

Q:受注について「その他」のカテゴリーが減少しているが、その内、CTC ライフサイエンスを単体に取り込んだことによる影響はどの程度か？

A:CTC ライフサイエンスに関するインパクトは▲10 億円ぐらい。それ以外にも、海外事業会社や国内事業会社での金融向けビジネスの減少もあった。

Q:クレジットカード業界では、改正割賦販売法対応などの需要は出てきているか？

A:C-ARCS 関連の受注が増えてきている。

2. 2017 年度 Q2 見通し

Q:情報通信事業の Q2 の受注動向は？

A:Q1 の受注は増加となった。Q2 については、前年度製品ビジネスが好調だったことを踏まえると少し減少する可能性があるが、上期では前年並みにできるよう引き続き努力していきたい。

Q:開発と製品の売総率改善に関しては、流通・エンタープライズ事業の個別案件の継続性次第だと思うが、サービスの売総率改善の持続性は高いのか？

A:現時点ではこの改善傾向が持続するかは分からないが、今のモメンタムを維持できるよう、努力していきたい。

Q:Q1 は事業会社の採算性改善などで好調だったが、今後もこのモメンタムは継続するか？

A:Q1 はウェイトが小さいので、この結果だけで判断するのは難しいが、このモメンタムを継続できるよう努力する。

以上